

第 91 回東葛しぜん研修会

吹春先生によるきのこ勉強会「きのこの自然誌」

渋谷孝子(流山市)

日 時：2021年3月24日(水)13:30~15:30 (Zoom 研修会+パレット柏会議室)

参加者：指導員 23 名、他 1 名 担当指導員：川瀬・三嶋 (渋谷・龍門)

講 師：吹春俊光先生 (千葉県立中央博物館・上席研究員)

吹春先生は親しみやすく 分かりやすいお話で、基本のおさらいから「キノコはえらい！」に向かって私たちを導いてくださいました。途中私の能力では理解しきれない部分も多々ありましたが、観察会で一般の方にお話しするときのヒントになりそうなところをいくつか以下に記します。

・キノコは菌類である。子実体はカビの花、胞子で増える。キノコの本体は地面の中、材木の中に広がっている。

・胞子のサイズは風に乗って飛ぶのに、丁度ふさわしい大きさ(1/100mm)になっている！

・胞子はヒダから重力 G の 2 万倍のもの大ききで打ち出される。

・世の中の生物で最大のものシロナガスクジラではなくキノコ！

・キノコの仲間が地球に登場したのは約 1~2 億年前。人間よりもずっとずっと大先輩！

・身の回りの生き物を分類すると…自分で栄養を作り餌の必要のない生き物(植物)と餌を獲る必要のある生き物と分けると、キノコは後者。つまり動物に近縁！動物は目で見て餌の方向に移動し捕らえて食するように進化してきたが、菌類は動かずに餌をとる方向(分解と吸収)の能力を進化させて菌糸という器官を素晴らしく発達させた！決して下等な生き物ではない！！(系統樹)

・酵素で分解した基質(木材など)を吸収するためには菌糸の表面は薄い必要があり、表面積を広くするため菌糸は細いほうが良く、しかもパイプ構造である必要がある。それに最適な菌糸のサイズと構造になっている！

・森は腐生菌がなければ、落ち葉や枯れ木が積み重なってしまう。森の木々は地面の下で菌根菌つとながって栄養のやりとりをし、乾燥からも強くなったりして元気に育つ。森はキノコなしでは生きていけない！ 森は木々と菌とのネットワークで出来上がっている。

→キノコはえらい！

東葛ではまだ慣れない Zoom 講座でしたが、川瀬さんのお骨折りで実現しました。受講者の表情が見えないと先生はやりにくいようですが、なかなか会場まで足を運べない方の参加も可能となり、良い面も多かったと思います。実施する担当者にはご苦勞おかけしますが、参加するのはとっても簡単！是非参加しましょう。

当日の講義は先生の了解をいただき <https://youtu.be/2vh9GPKel3g> ご覧いただけます。

《おうちで中央博》千葉県立中央博物館のウェブサイトもご覧ください。

<http://www2.chiba-muse.or.jp/www/NATURAL/contents/1586494739989/index.html>

